

# しょうぼう 消防も…のひと

消防団員 = 発災時に市民を守る使命を  
帯びた隣人(りんじん)



内野 伸一郎 さん  
佐藤 卓哉 さん  
田中 公規 さん  
(第17分団所属)

幼馴染として育って、高校までずっと一緒でしたね。3人とも家業が玉川のトマト農家で、家も近かったので子どものころは毎日のように遊んでいました。

3人別々の大学に進んでから家業を継ぐまで、サラリーマンを経験したりで全員が揃ったのは2、3年前のことです。今はそれぞれのハウスでトマトを育てていて、11月には収穫期を迎えます。

このようなこともあって消防団に入った時期もまちまちです。放水する消防職員への水の繋ぎ、火事場に真っ先に駆けつけての初期消火など、やはり消防団の活動はとも大事なものだと感じています。

休暇は旅行に行ったりゴルフに行ったりまちまちです。農家なので休みの時期も大体同じですけど、一緒に旅行したりはしないです。もういい大人なので(笑)



## COVER PHOTO

—— 表紙 ——

長伏から、富士山と黄金色の稲穂を撮影した1枚です。秋の訪れを感じるこの風景に、百人一首 / 大納言経信の歌(金葉集)を思い浮かべました。

時が移り変わっても、季節を感じる心は変わらないものですね。

## CONTENTS

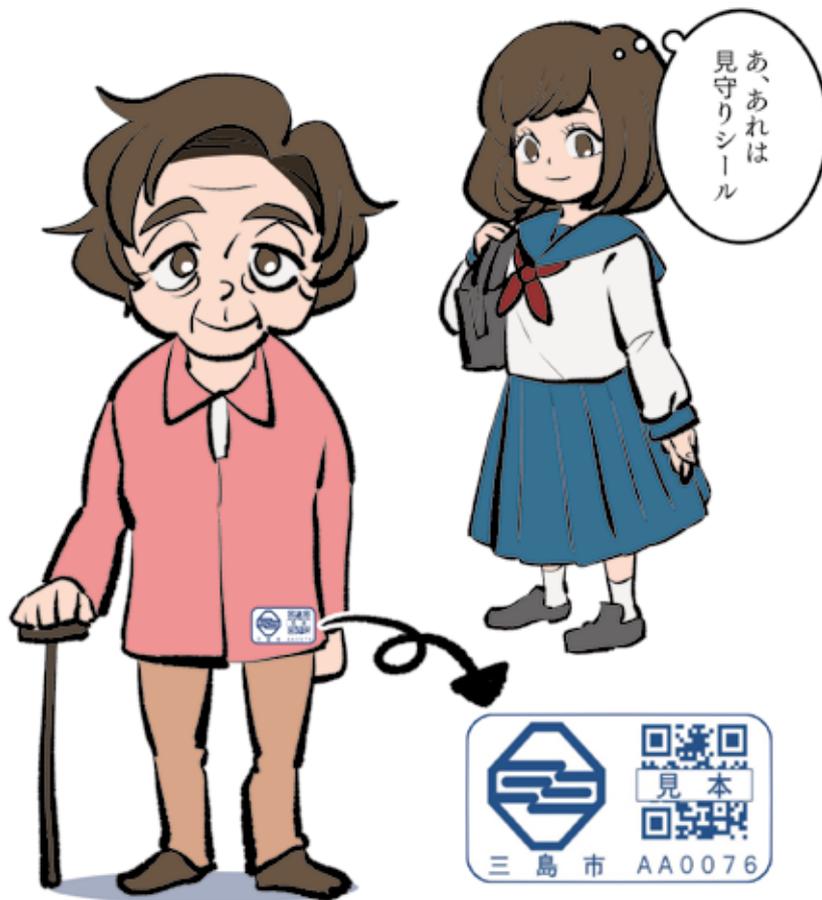
—— 目次 ——

- 2 消防も…の人
- 3 認知症特集  
— 地域で優しく見守って —
- 6 みしま情報便 (information)  
秋の大通り宿場まつり / 御殿川豪雨災害等緊急対策事業 / 中央幼稚園跡地に活気を / 議会報告会にお出かけください ほか
- 10 お知らせアラカルト
- 15 いきいき健康
- 16 ノルディックウオーキングのすすめ。
- 18 11・12月は県下一斉の滞納整理強化月間です
- 19 連載 ガーデンシティみしま
- 20 楽寿園第65回菊まつり

# 地域で優しく見守って ～認知症～

認知症は誰にでも起こる可能性のある病気です。認知症といっても、すぐは何もかもわからなくなるわけではありません。しかし、中には目的や場所がわからなくなってしまう人もいます。認知症やその疑いによる行方不明者は、平成28年には全国で1万5432人いました。

家族は、自宅に戻って来られないのではと心配になります。認知症になっても住み慣れた地域で生活するためには、地域の皆さんの見守りが大切です。



## 認知症コラム



認知症初期集中支援チーム  
認知症サポーター医  
広小路クリニック理事長 木野紀さん

今から45年前、有吉佐和子が「恍惚の人」を出版しました。老人は「恍惚として夢をみているように思われた」と表現され、徘徊、過食、妻の死を認識できない、息子や娘がわからない、しかし日ごろ介護している同居の嫁のことはわかる……。当時は大変めずらしい病気で、発症したら治らないと教えられました。

2000年に介護保険制度が始まり、2004年に痴呆症は認知症と呼び名が変わり、2025年には「認知症700万人」時代へ突入します。認知症になっても安心して暮らせるまちづくりが求められています。

私が認知症の家族会「ほほえみ」を立ち上げたのは今から23年前です。認知症には「医療」と「介護」の連携が必要。「介護は〜頑張らない、片手間にする、手抜きする」を会のモットーに活動を続けていきます。